

ロシア・ウクライナ間の停戦・和平の行方

上席主任研究員 玉置 浩平

トランプ政権下で急展開を迎える交渉

3月11日、米ウ両国は共同声明を通じ、ウクライナがロシアとの30日間の停戦に応じる用意があると発表した。2月28日の米ウ首脳会談では、トランプ・ゼレンスキー両大統領、さらにバンス副大統領まで加わった「口論」が大きな波紋を呼んだが、同日の高官協議を経て形式上は関係修復が図られた。これに対し、ロシア側は米ウが合意した停戦条件には応じない意向を示しつつ、戦場では昨年ウクライナ軍の越境攻撃で占領されたロシア領土の完全奪還を目指して攻勢を強めている。

早期停戦・和平を急ぐトランプ政権だが、対ウクライナ軍事支援の継続という強力な対露交渉カードは半ば放棄した状態だ。米欧間の摩擦もロシア側に対する交渉力を弱めるおそれがある。規模・物量で勝るロシアとしては、有利な条件が提示されるまで停戦を急がず、いら立つ米国がウクライナ側に譲歩を求めるというのが最良のシナリオだろう。

ただ、ロシア側も短期決戦を見込んだ戦争が長引き、泥沼化した前線に北朝鮮軍まで投入する苦しい状況にあることは否定できない。トランプ政権の不確実性はロシア側にとっても一定のリスクとなる。欧州内の対米不信はかえって対露強硬論を勢いづかせる可能性もある。戦局の劇的な変化が起きないとすれば、停戦を先延ばししてもロシアが得られる果実は限定的かもしれない。

今後の展開を見通す2つの軸

停戦・和平の行方は依然として不透明だが、大まかな方向性を検討する上で、①和平枠組みの性質と②対露抑止の強弱という2つの軸を想定することができるだろう。

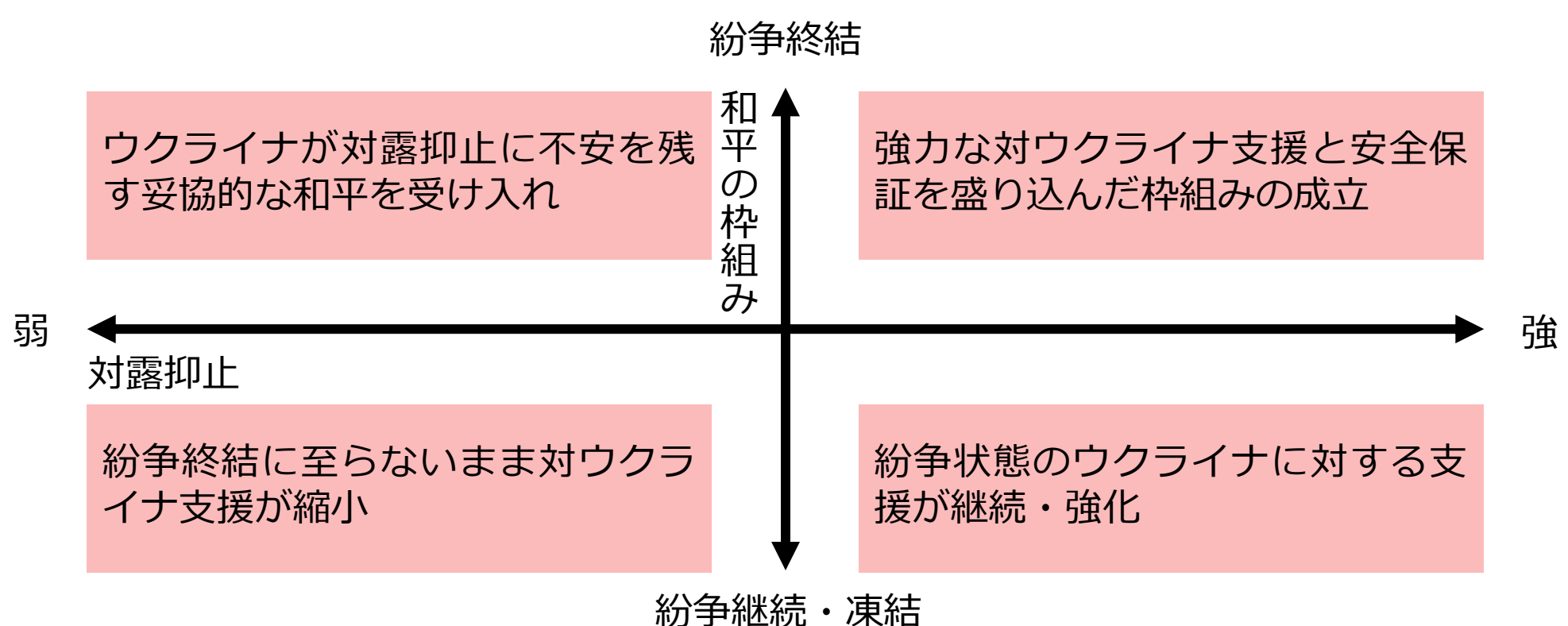
第一に、和平の枠組みとして、一方の極には、停戦を経て和平交渉が行われ、平和条約の締結をもって戦争状態が終了するという典型的な和平プロセスを想定することができる。そして、もう一方の極には、停戦が全く成立しないという状況があり得る。完全終結と現況のままの紛争継続の間には、停戦は成立したが遵守されない、停戦後に和平交渉がまとまらず「凍結された紛争」と化するなど、様々な可能性が存在する。朝鮮戦争のように平和条約ではなく休戦協定のみが結ばれ、法的には戦争状態が続いているとされる事例もある。

戦争状態の終結は、ロシア側にとっては経済制裁の解除、ウクライナ側にとっては安定した戦後復興のための重要なステップとなる。ただ、関係国間の調整がつかず、紛争が継続・凍結されたままとなる可能性は排除できない。特に領土画定は平和条約には欠かせない要素だが、ウクライナ領内のロシア支配地域の法的地位を巡る問題は、双方にとって譲歩が難しい論点だろう。

第二に、どのような和平枠組みが選択されるにせよ、対露抑止が実際にどの程度確保されるかという問題がある。ウクライナは、ロシア再侵攻の懸念を最小化すべく、関係国による実効的な安全保証（security guarantee）や軍事支援の継続を求めるだろう。一方、ロシア側には、紛争時の第三国の介入やウクライナの軍備を制限し、同国への影響力を確保する狙いがあるのは明白だ。

英仏などは平和維持軍をウクライナに派遣する案を検討しているが、その展開先や任務、構成国、派遣期間などによって対露抑止力としての意味は変わってくるだろう。いずれにせよ、ロシアはウクライナ領内への第三国軍の駐留には強く反対するとみられ、実現のハードルは高い。

▽ロシア・ウクライナ間の停戦・和平のイメージ



(執筆者プロフィール)

玉置 浩平 (Kohei Tamaoki)

TAMAOKI-K@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：地政学リスク、経済安全保障、産業・通商政策、デジタル・サイバー

外務省入省後、朝鮮半島、宇宙・海洋安全保障、国際原子力協力などに関する外交政策の企画・立案に従事。在大韓民国日本国大使館では、北朝鮮情勢や韓国政治・外交に関する情報収集・分析を担当。2021年から丸紅経済研究所にて地政学リスクや経済安全保障などに関する調査研究を行うほか、丸紅グループの政策渉外業務にも関与。東京大学法学部卒業、タフツ大学フレッチャースクールLL.M.修了（国際法修士）。米国ジャーマン・マーシャル財団 Young Strategists Forum 2023 コーホート。

株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。